

#### (4) その他

##### 平成24年度総会を開催

5月20日(日)八王子市加住市民センターで「NPO法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会」の平成24年度総会を行いました。

平成23年度事業報告と収支決算、平成24年度事業計画と収支予算、平成24年度役員選出の審議・採決および滝山城散策ツアーのガイドや第1回城郭学習会などについての報告がありました。

##### 滝山城さくらまつり

4月8日(土) 滝山さくらまつりの会場(中の丸)において『よみがえる滝山城』、『滝山城戦国絵図』を販売しました。

「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」と書いた黄色いノボリと、甲冑・具足を身に付けた会員の姿は会場内でもとても目立っていて、本の売れ行きも好調でした。



##### 「アサココ」に記事が掲載されました

多摩地域のタウン誌「アサココ」5月号に、『甲冑姿で城跡をガイド』の記事が掲載されました。



##### 新入会員紹介

新たに2名の方が入会されました。 ①氏名 ②住所 ③年齢 ④本人からひとこと



①橋本 勝美さん ②八王子市千人町  
③73才  
④ご指導の程、よろしくお願ひいたします。



①藤原 一幸さん ②昭島市宮沢町 ③62才  
④関東の戦国時代はほとんど知りませんでしたが、滝山城を  
知り、かぜん興味がわいてきました。ご指導の程、よろしく  
お願ひいたします。

【訂正】 滝山だより第3号の記事に誤りがありました。下記の通り訂正をお願いします。

3ページ 遺構説明板 ⑦ (誤) 氏邦の鉢型城 → (正) 氏邦の鉢形城



# 滝山だより

よみがえる滝山城

NPO法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会  
会報 第4号 平成24年8月1日発行

## 平成24年4月～平成24年6月活動

### (1) 定例活動(下草刈り、景観伐採、景観維持作業)

今年度は、年間12回の定例活動のうち、8回を景観維持作業として年間活動計画に組み入れています。

日付	時間	実施場所
4/15(日)	9:30～15:00	カゾノ屋敷東空堀周辺(下草刈り・景観伐採)
5/20(日)	9:30～15:00	大池堤周辺(下草刈り・景観伐採)
6/17(日)	9:30～15:00	本丸西・出丸周辺(景観維持)



カゾノ屋敷東空堀の作業



大池の堤上の下草刈り作業



大池の堤上の作業後の景観



作業の合間の城跡遺構の確認



本丸西腰曲輪の作業前の景観



本丸西腰曲輪の作業後の景観

### (2) ツアーガイド

道の駅八王子滝山・滝山城跡文化協会主催の滝山城跡散策ツアーのガイドの他、3件のガイドを実施しました。

日付	名称	主催または依頼者	参加者
4/10(火)	滝山城跡見学のガイド	大阪中世城郭同好会	32名
4/28(土)	滝山城跡見学のガイド	武藏野文化協会	15名
5/11(金)	滝山城跡見学のガイド	都職労退職者協議会	23名
5/26(日)	滝山城跡散策ツアーのガイド	道の駅八王子滝山・滝山城跡文化協会	30名



大阪中世城郭同好会(4/10)



武藏野文化協会(4/28)



滝山城跡散策ツアー(5/26)

### (3) 城郭学習会

6月3日(日)に実施した第1回城郭学習会は、21名の会員の参加があり、マイクロバスで金尾要害山城跡(埼玉県花園町)、天神山城跡(埼玉県長瀬町)、鉢形城跡(埼玉県寄居町)の3城跡を訪問しました。中世城郭研究家で会員でもある中田正光さんに案内と解説をしていただきながら、それぞれの城跡の遺構を見学しました。天神山城跡では池跡の存在や出郭周囲の築城術など、興味深い発見がありました。

**金尾要害山城跡** 金尾山は、中世の名城鉢形城の西方の支城のひとつ要害山城(城主金尾弥兵衛)で、天文元年(1532)藤田左衛門佐重利が築城したものと言われ、天正18年(1590)6月14日鉢形城の落城とともに廃城となった。南方から張り出す尾根上の先端部分に築城され、枱形虎口、土橋、堅堀、堀切などの遺構が残っている。



二の曲輪に建つ愛宕神社は城の守護神として建立した祠堂が始まりと伝わる。後方に見えるのは主郭の展望台。

主郭の展望台で解説する中田正光さん。指を指す荒川下流方面には、花園城跡、花園御嶽山城跡、鉢形城跡などがある。

**天神山城跡** 藤田重利(のちに康邦と改名)が天文元年(1532)に築城し居城にしたという。南武藏の大石氏(滝山城主)とともに山内上杉氏の重臣であった藤田氏は天神山城を中心に、花園城、千馬山城、要害山城、虎ヶ岡城などの支城を構えていた。天文15年(1546)の河越夜戦を勝ち取った北条氏が北武藏に進出すると、藤田重利はその軍門に下り、氏康の三男・氏邦を養子に迎え、天神山城と家督を氏邦に譲り、自らは用土城に引退した。天神山城は、南から北に伸びた尾根上の先端に築城され、東側の山腹には出郭と呼ばれる曲輪が構築されている。



主郭北の二重堅堀を観察



二の曲輪には観光用の展望台が残る



固い防衛の出郭は居館跡か



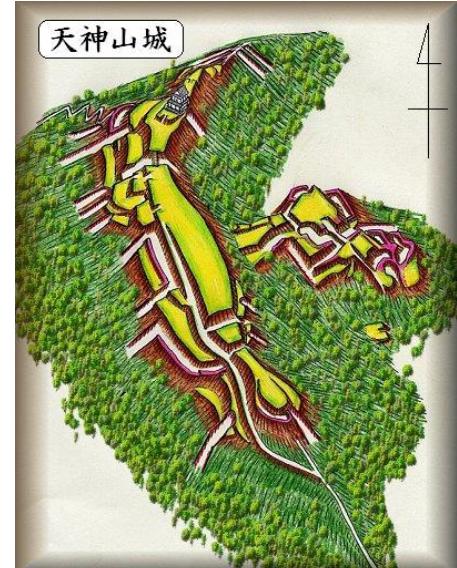
腰曲輪と出郭を隔てる堀切



池跡の堤を調査する



堤に残る石積み



今回、天神山城跡を調査した際に、東側山腹に設けられた出郭周囲に興味深い遺構を確認しました。  
 ①池跡の存在 石積を用いた築堤が確認できました。この下流部の谷にも数か所の池が構築されていた可能性があります。  
 ②出郭周囲の築城術 出郭の周囲に巡らせた空堀と土橋は巧妙に組み合わされ、また堅堀を配することで、山麓からの攻撃に対する防御は非常に堅固です。山頂部とは全く異なる築城技術は、北条氏が関与した可能性が高そうです。

**鉢形城跡** 鉢形城は、関東管領山内上杉氏の重臣だった長尾景春が主君に反旗を翻した『長尾景春の乱』の際に築城したとされる、荒川と深沢川に囲まれた自然地形を巧みに利用した名城である。天神山城を居城としてこの地方を支配していた山内上杉氏の重臣・藤田重利は天文15年(1546)の河越夜戦後に北条氏の配下となり、氏康の三男・氏邦を養子として天神山城と家督を譲る。天神山城に入城した氏邦は、その後鉢形城を改修して居城とし、領地経営の拠点とした。河岸段丘上に築かれた鉢形城は、三の曲輪・二の曲輪・本曲輪と次第に低くなるという特異な縄張りとなっている。このため、三の曲輪の外郭には深い空堀と高い石積土塁・池などを配して守りを固め、各曲輪間は空堀、土橋、馬出、枱形虎口などにより敵の侵入を防ぐ工夫がなされている。三の丸の伝逸見曲輪に残る池跡には弁天島の姿が見られる。この弁天島は滝山城で発見された弁天島と同じ規模となっている。永禄12年(1569)越相同盟の成立に怒った武田信玄は、碓井峠を越えて進軍。氏邦が率いる鉢形城を包囲したが鉢形勢の防戦に攻撃を中断。軍勢を南下させ氏照の居城・滝山城を攻撃し、二の丸まで攻め込んだところで攻撃を中断。小田原城の攻撃に向かった。天正18年(1590)6月14日、前田利家、上杉景勝、真田昌幸らの豊臣勢に包囲され、鉢形城は開城している。



大手口の馬出跡に建つ諏訪神社

復元石積土塁と復元四脚門

石垣や池が復元された伝秩父曲輪

巨大な空堀には敵も見られる

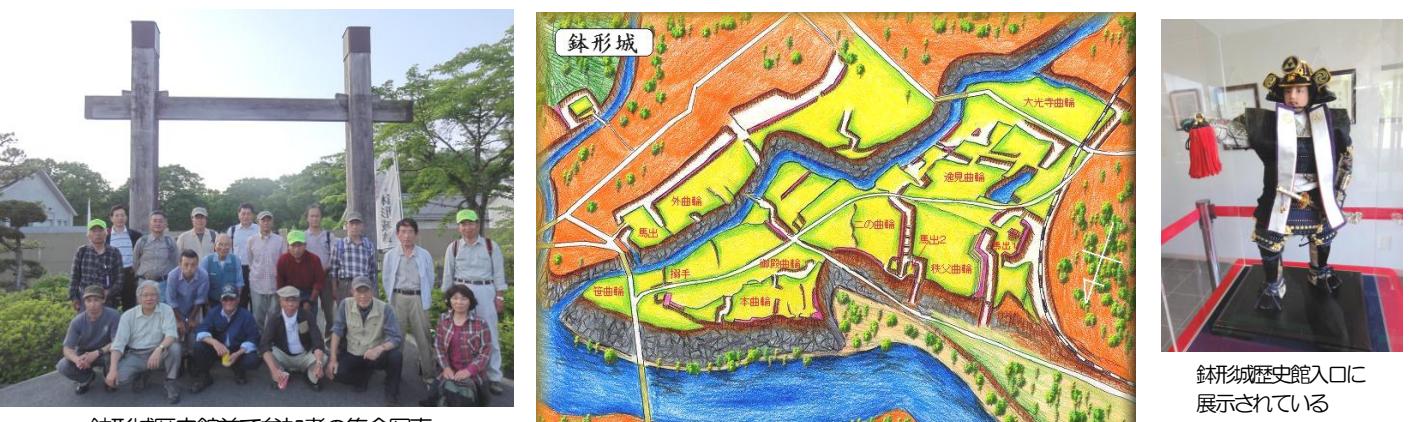


馬出と二の曲輪の間の土橋

二の曲輪から伝秩父曲輪を見る

伝逸見曲輪から弁天島へ向かう

池跡の中に浮かぶ弁天島



初夏の鉢形城跡にて

6月3日、滝山城跡群・自然と歴史を守る会は城郭学習の一環として鉢形城と天神山城の見学を行った。20数名の参加者であった。鉢形城は戦国時代の城郭としては比較的綺麗に残された城のひとつと云われている。深沢川が荒川に合流する地点に立地しているため、地形上、東南北側は堅固であるが、西側は開けており防衛上の弱点となっている。そのため城主の居館や上級武士の館があった本曲輪から西側に何重にも深い堀切を行い、二の曲輪・三の曲輪などの曲輪をいくつも造成している。各曲輪は、堀と土塁で囲まれるほか、主要な出入口には方形の馬出を備えている。特に二の曲輪と三の曲輪を隔てる巨大な空堀と土塁は目を見張るものがあった。最大幅は約24m、深さ約12mである。また、城の外側の小河川を上手く取り込み、水堀としているのも興味深かった。そして、私が特に驚いたのは石積土塁である。石積土塁は、全長約100m、高さ約4m、上幅約6m、下幅約12mの規模をもち、内側には川原石を3から4段の階段状に積み上げていることが確認でき、雁木と呼ばれる階段も作られていた。築城当時、すでに専門の技術者がいたことがうかがわれる。滝山城は鉢形城より45年後に築城である。発掘すれば多くの石垣が発見されるに違いない。これから発掘作業に期待するとともに、そのことに立ち会えることに感謝したい。

戸松繁雄さんより寄稿いただきました